

タカクラストーンズ


2009年 夏号 Vol.3



本号のトピック

- “ジテツ” ! ?
- 砥石の取り扱い
- 砥石の歴史って？
- 弊社の取り組み ~5Sに取り組んで ③~
- 弊社社員の紹介



発行元 研削・研磨の専門的ソリューション企業
 高藏工業株式会社

■ “ジテツ” ! ?

まだまだ暑さが厳しいなか、皆様方にはいかがお過ごしでしょうか？

最近、“ジテツ”なる言葉を耳にしました。ご存知の方、すでに実践しておられる方もいらっしゃると思います。自宅ー職場間を自転車で往復する、そう自転車通勤のことをいうそうです。“ジテツ”のメリットとして、

- 自動車と違って有害汚染物質を出さないので地球環境に優しいこと。
- 有酸素運動をすることになり健康に良いこと。

○朝の適度な運動は、その後の業務にも好影響をもたらすという考え方もある。があげられるそうです。近年の地球環境問題への関心の高さや、健康志向の高まりからか、“ジテツ”をする方が増えているそうです。また、こうした動きに合わせて官公署や企業側が、自転車通勤者に対して手当を拡充する動きが一部で見られるようです。

毎日とはいかないまでも、たまにはいつもより早めに起きて自転車で颯爽と通勤してみるのも良い気分転換になるかも知れません。そして良い汗かいて帰宅した後のビールの味はいつもと違う味になるかも！？

ただ、帰宅途中（だけではありませんが）に飲酒をし、自転車に乗る行為は、道路交通法違反となりますのでご注意を。



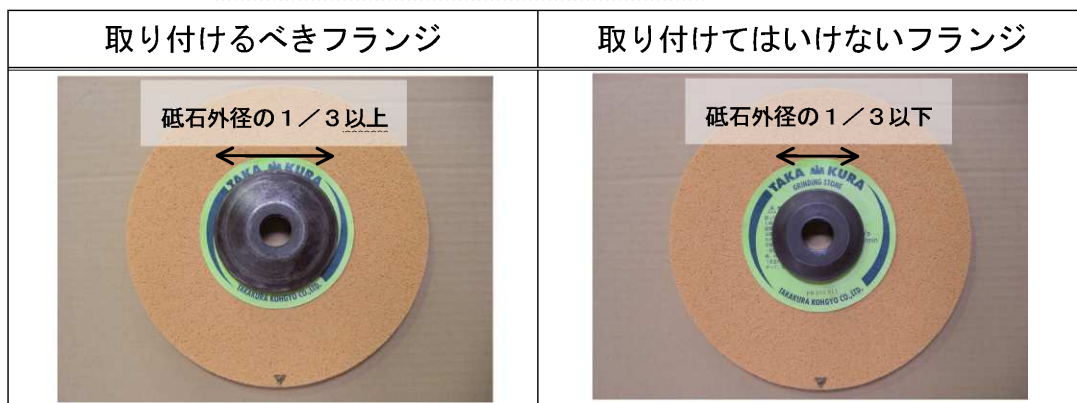
■ 砥石の取り扱い

砥石を安全にご使用いただくために、“すべきこと”、“してはいけないこと”があります。誤った使い方をした場合、砥石が破壊して重傷または死亡をまねく恐れがあります。安全な作業のため、労働安全衛生規則・研削盤等構造規格に基づく“すべきこと”、“してはいけないこと”を必ず守ってください。日々ご使用いただく方々に、今一度ご確認いただければと思います。

▼ “すべきこと” （一部抜粋）

- 砥石の取扱いは、「ころがすな、落とすな、ぶつけるな」の三原則を守ること。
- 機械へ取り付ける前に、砥石のひび・われ・かけ等の外観検査と打音検査をすること。
- フランジは、外径と接触幅が左右等しく、適正なものを使用すること。

⇒フランジ径は、取り付ける砥石の外径の1/3以上のものを使用して下さい。（下図参照）



- 砥石カバーは、常に砥石の1/2以上を覆う適正なものを使用すること。
- 作業中は保護メガネ・防じんマスクなどの保護具を着用すること。

▼ “してはいけないこと” （一部抜粋）

- 落としたり、ぶつけた砥石や、検査で異常があった砥石は使用しないこと。
- 砥石との接触面に変形・きず・よごれ・さびのあるフランジは使用しないこと。
ナット付砥石の場合は、逃げ部のあるフランジ（台板）は使用しないこと。
- 加工物を無理に砥石に押しつけないこと。また、砥石を無理に加工物に押しつけないこと。
- 引火・爆発の恐れのある場所では研削作業をしないこと。

● 砥石の保管について

- 砥石の保管は、常温の乾燥した場所に、枠や棚を設け、立てかけ、薄物は数枚ずつ重ねて並べてください。



砥石は、急激な温度変化の少ない常温の乾燥した場所に枠や棚を設けて保管し、切断砥石などの薄物は、平らなところに数枚ずつ重ねて並べてください。

特にレジノイド砥石やマグネシア砥石は、吸湿作用により水分や湿気があると強度が低下しますので、注意が必要です。

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ 砥石の歴史って？ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

◆ 砥石の歴史を紐解くと、人類が砥石（天然）を利用して磨製石器を作っていた時代（諸説ありますが、紀元前9,000年くらい）にまでさかのぼることができるそうです。人類初期の道具の一つといえるでしょう。

日本では、縄文時代（諸説ありますが、約16,500年から約3,000年前）の遺跡から石器とともに研磨跡のある石が出土しているようで、道具として利用されていたといえるでしょう。

そして、時は流れ、19世紀、人造砥石がアメリカで製造されるようになりました。いまや、切削工具とともに、加工精度を得るための工具として重要視されています。



■ 弊社の取り組み ~5S（整理・整頓・清掃・清潔・^{しつけ}躰）に取り組んで③~
弊社では、全社をあげて「5S」に積極的に取り組んでいます。



上の写真は、全従業員参加による早朝草刈り作業の様子です。
この日（4月30日）は、日差しもさほど強くなく、朝の快適なうちに作業を進めることができました。工場敷地に生い茂ってきた雑草を刈り取ることで、みんなできれいな職場環境をつくりあげることができました。

これからも弊社では、お客様により良い製品をお届けする為に、「5S」に取り組んでまいります。

■ 弊社社員の紹介 ～今号は、製造部長 水野勝也よりご挨拶させていただきます。～

はじめまして。製造部の水野勝也と申します。私が高藏工業に入社して早35年が過ぎようとしています。入社した当時は、検査部（現 製品管理部）で砥石の「いろは」を学びました。

そして、製造部に異動して「ものづくり」に携わるようになり、30年が経ちますが、その間にじつにさまざまな産業（例えば、鋳物バリ取り、特殊鋼黒皮取り、ビデオデッキのヘッド、木工、医療用注射針、建築タイル、自動車部品や精密機械部品等）の研削・研磨方法を探究させて頂き、大変勉強になりました。なかなか脚光を浴びることのない地味なイメージのある「砥石」ではありますが、今やさまざまな産業に必要なものとされ、「ものづくり」における縁の下の力持ちであると自負すると共に、安定した品質を作り続ける責任を常に感じながら日々の仕事に向き合っております。



現在、産業技術の進歩や、加工精度の精密さがさらに要求されるようにつれて、全自動研削盤が主流となりました。こうした中で、「砥石」の品質安定・向上に対する“期待”も大きくなりつつあると感じております。そこで、品質安定・向上に向けて、製造工程・焼成炉の「5S」活動の推進、「砥石」のさらなる探求を続けております。こうしたことが、お客様に評価いただき、お褒めの言葉をいただけたらこんなに嬉しいことはありません。

最後に、多くの方々に関わり合い、いろいろ教えて頂いたことに、心より感謝申し上げます。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

製造部長 水野勝也

- ▼ 当ニュースレターに関しまして、ご意見・ご感想などございましたら、下記までご連絡ください。
- ▼ 今後、当ニュースレターがご不要の方は、誠に勝手ではございますが、下記までご連絡ください。

研削・研磨の専門的ソリューション企業

 高藏工業株式会社

本社・工場 〒487-0024 愛知県春日井市大留町77番地
TEL 0568-51-0111(代) FAX 0568-51-0025

営業部 〒487-0024 愛知県春日井市大留町77番地
TEL 0568-51-1201(代) FAX 0568-51-0025

URL <http://www.tkknet.co.jp/>

E-mail takakura@tkknet.co.jp